

第12期中央教育審議会 初等中等教育分科会
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会
第7回 義務教育の在り方ワーキンググループ発表資料 2023/07/18



日本の教育を国際的視野から問い直す

ー フィンランドの教育に着目して ー

信州大学 伏木 久始

hfusegi@shinshu-u.ac.jp

1

私に求められた発表内容に関して



◆個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会 義務教育の在り方ワーキンググループ⑦

「オンラインを活用した学びの進展など、義務教育の提供方法の劇的な変化や海外との比較を踏まえた、今日の学校の意義・役割について」…の発表



本日のプレゼン

- 日本の教育を国際的な視野から捉え直してみたとき、その「日本型学校教育」の特色とはどのように説明できるのだろうか？
- また、それらの特色は、これからの日本の学校教育が目指していく方向性にとって、継承していくことが望ましいのか、それとも問い直して変えていくことが望ましいのか、タブーを度外視して、学校の“当たり前”をダウトして言及する。
- …ここでは時間の制約から、さまざまな国の参照事例の中から、北欧のフィンランドを対象として、その社会制度および学校教育の実情を簡潔に紹介し、これからの未来に向けて、わが国の学校教育がどのような改革を目指していくべきかの話題提供を試みる。

◎前提として共有しておきたいこと:

他国の事例を「見える教育」やデータだけ切り取って議論することの問題性
地理的・歴史的背景や社会制度、教育理念などとの因果関係を踏まえて議論すべき

2

参考) 海外からみた日本の学校教育の特色

* 以下, 多くの公立学校にみられる一般的状況を15項目ピックアップしてみました

- 敷地内に校舎よりも広いグラウンドと体育館とプールがある
- 小中学校の学校設置者(市町村)と人事担当部署(都道府県)が異なる
- 教育委員会による定期的な人事異動のコントロールがある
- 学習指導要領における教科等の記載が具体的で詳細である
- 教科書検定が維持されており教科書に則したテストで進学先の選抜が行われる
- セレモニーが多く, 号令に合わせて姿勢を正して挨拶(礼)をする
- 50年も100年も変わらぬ「学校教育目標」がある
- 学期ごと, 学級ごとに共通の「目標」を立てると共に, 個人の「目標」も別に設定する
- 学級ごとに生活班などを単位とした相互協力のシステムを導入している
- 教室に食材を運んで子ども同士で給食の配膳を行う
- 掃除当番を決めて毎日のように子どもが学校清掃を行う
- 学校行事の“練習”のために特別時間割を編成して授業時間を割く
- 家庭学習の時間や内容, 夏休みの宿題を具体的に指定する学校が多い
- 保護者が機会均等にPTA活動を分担して学校内の常設委員などの役割を担っている
- 小学生だけで集団登校する(できる)一方, 下校時に教員が学校外の道まで同伴する

3

フィンランドという国



- 人口 550万人 (日本の5%未満)
* 一人も取り残さないという社会保障理念
- 面積 33万8千km² (日本全体から九州を除いた広さ)
* 国土の7割が平地の森林
- 人口密度 18人/km² (日本は338人/km²)
* 北極圏ラップランドの人口密度 2人/km²
- 公用語: フィンランド語・スウェーデン語・サーミ語
- 外国人居住者: 人口の6.2%

(Statistics Finland 2018, Education at a Glance 2016)

- EU加盟国 通貨ユーロ
- NATO加盟(2022)
* 国民の8割は地下シェルターに避難可能



私が住んでいた
街: ユバスキュラ

消費税 24%

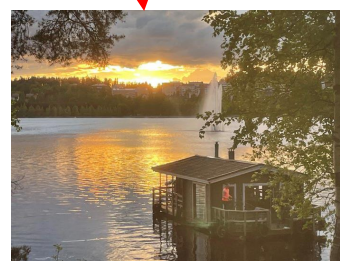
(薬品や書籍は10%, 食品は14%)

所得税①→国: 累進課税 6~31.25%

②→自治体: 固定税率 16~23%

年金保険は年収の6.75%

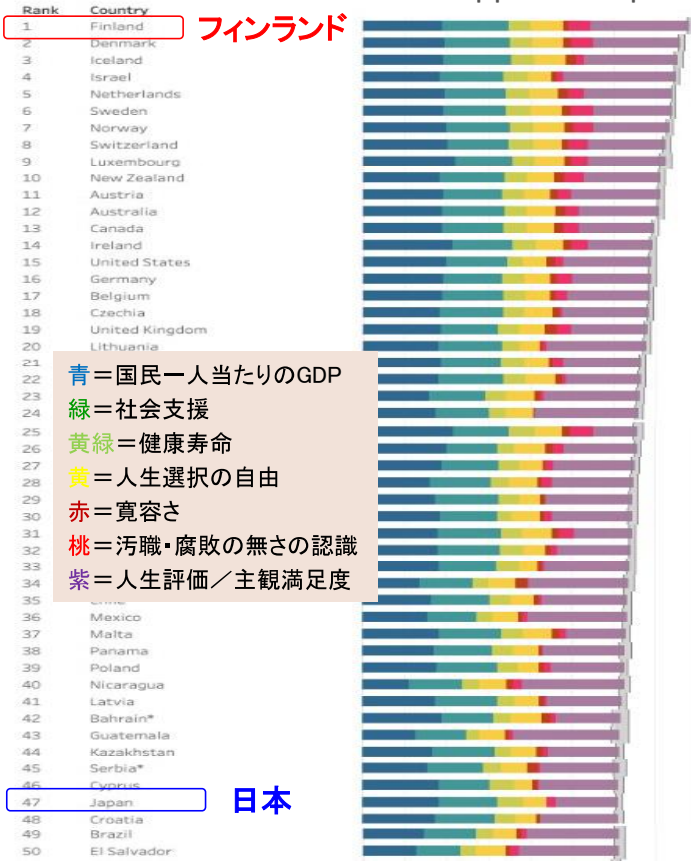
失業保険は年収の1.5%



参考) 世界幸福度指数 6年連続世界1位



▼世界幸福度ランキング2020-2022 World Happiness Report 2023.3.20発表



■ 調査項目: (米)ギャラップ社

- ①一人当たりのGDP
- ②社会的支援
(困った時に頼れるものや人がいるかどうか)
- ③健康寿命
- ④人生の選択の自由度
- ⑤他者への寛容さ
(過去1ヶ月以内に寄付をしたか)
- ⑥国への信頼度
(政治腐敗の無さに対する認識)
- ⑦人生評価/主観満足度

約千人が各問0~10までの11段階で回答
過去3年間(2020-2022)の平均で計算
日本の順位は137カ国中47位に上昇

【出典】<https://worldhappiness.report/archive/>

フィンランド教育をささえる社会制度・生活様式



◎「人はそれぞれ違う」という前提からスタートする → 「同調」ではなく「協働」

1. 勤務時間が少ないのに国際競争力が高い

- 労働生産性が高い(コーヒー休憩が必須)
- あらゆる職種で労働時間は週平均37.5時間
- フレックスタイム+在宅勤務(3割~)
有給休暇は毎年100%使い果たす

2. 男女平等と公平でフラットな組織・人間関係

- 職場でも家庭でも男女平等共働き
- 職場では上下関係を嫌いファーストネームで呼ぶ
- ピラミッド型の人事組織がほとんどない

3. 無駄を省いて生産性・効率性を重視

- デジタル化・カード社会, ペーパーレス社会, 学校・園と家庭との連絡☞オンラインのVilmaシステム
- 誰ひとりの個性も無駄にしないという理念

4. 手厚い子育て支援

- 妊娠期以降, 家族全体の心身の健康もサポートするネウボラ/出産育児休暇と手当の経済支援

5. Well-beingを高める在り方

- 信頼(TRUST)にもとづくマネジメント
(国→地方自治体→学校長→教員)
- 柔軟にトライする裁量が与えられる寛容性
- 幼児期からのアントレプレナー教育
(「私は社会を変えられる, 自分は貢献できる」)

6. 生涯学習社会(1970年代~)

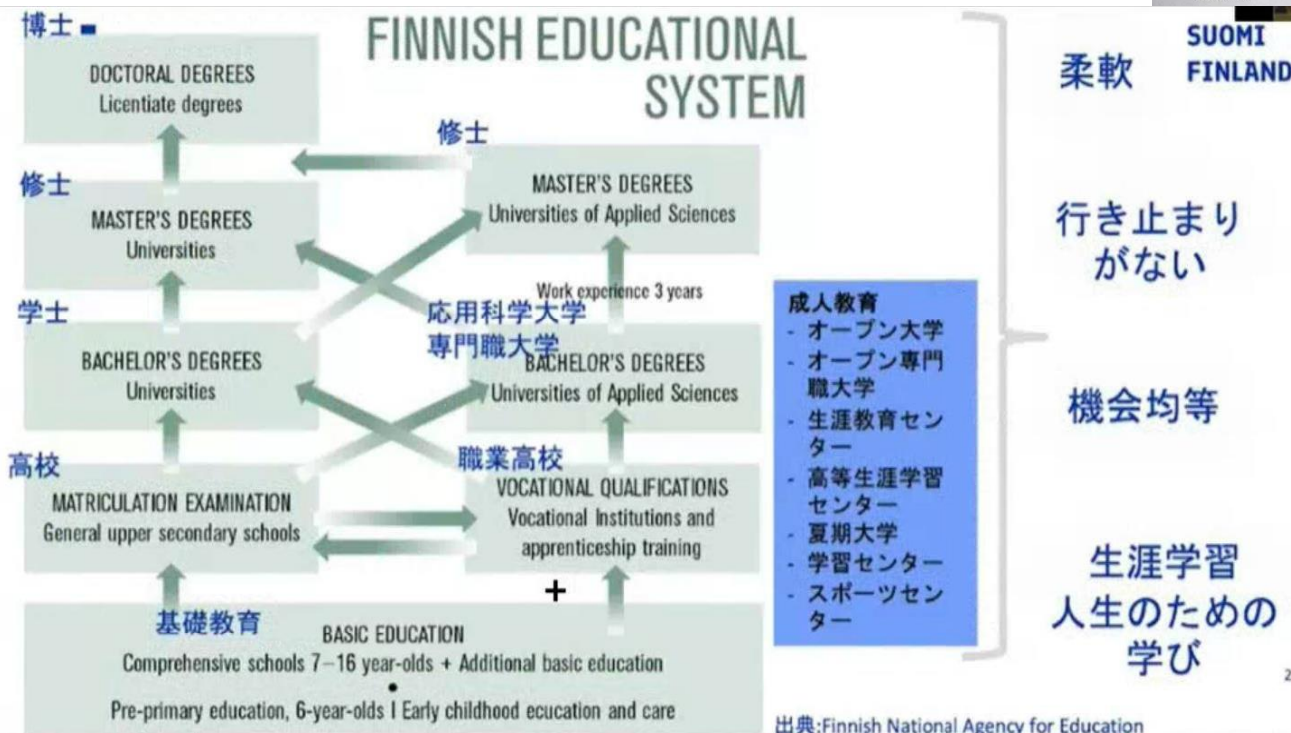
- 「生涯学習」から「継続教育」へ
→ 働きながら大学等で専門性を高める
- どの業界でもリスクリテラシーは重視され, 特に失業者は優先される

7. 自然の中で健康的な生活を優先する

- 森でのピクニックや湖畔での競歩や冬のスポーツ(カントリースキー, スケートなど)
- あらゆる施設にサウナが備わっている
- 週末には極力仕事をしない, 学会もない
→ 家族で森や湖へ

1. フィンランドの教育制度

義務教育は0年生から高校生まで。給食は高校まで無料。
義務教育はもちろん大学院まで学費は無料。



基礎教育の教育課程は、小学校と中学校の一貫(総合)教育。
就学前は「ネウボラ」という仕組みとケアセンターが子育てをサポート

2. フィンランド教育の主な目標

- 国が定める学習指導要領(シンプル)
↓ …信頼 (TRUST)
- 地方自治体ごとの独自性を保障(地方分権)
↓ …信頼 (TRUST)
- 学校・教師の裁量に委ねる実践(強み)



協働的な取り組みの重視



機会均等・公正

【教育現場の基本的スタンス】

- 協働的な取り組み(グループワーク)の重視
- 機会均等(家庭の経済的背景を反映させない)
- 「平等」より重視される「公正」
- 教科書検定と基礎教育段階での標準テストの廃止
- 発達の評価 developmental evaluation
- 無償(義務教育では授業料, 教材費, 給食費, 交通費)
- それぞれ異なる学習者への個に応じた教育



基礎教育でのテストのスタンダード化を排除

3. 学校の一年と教師の働き方

【年間授業日が190日】

- 8月初旬にスタート
(入学式・始業式等はない)
- 10週間後(10月)1週間の秋休み
- 12月に2週間のクリスマス休み
- 2月に1週間のスキー(スポーツ)休み
- 4月(イースター)の春休み
- 年度の修了は学級ごとの会で終わるケースが多い
6月初旬に約2か月の夏休み
 - * 計5期の Semester ごとに時間割を柔軟に調整する学校が多い
 - * この他, メーデーや宗教上の休日加わる
- 日本の「特別活動」はなく、朝の会や帰りの会、一斉挨拶もない。
- 行事的な活動を学校裁量で設けた場合も行事の“練習”はない。



4. テーマ学習のカリキュラムマネジメント

Phenomenon-based Learning(総合的な学習):テーマプロジェクト

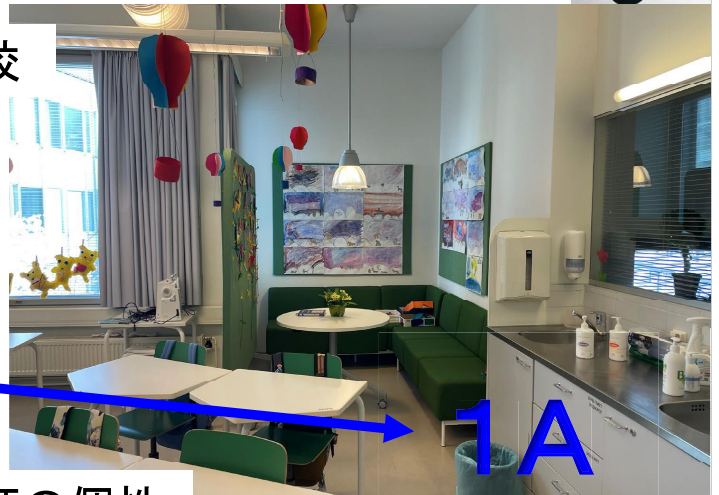


- 年間で最低でも一週間分の授業時数を確保することが求められているが、日本の「総合的な学習の時間」のように独立した授業時数の配当はないため、各校(教員)でカリキュラムマネジメントを行って実践している。
- 7年生以上では、「テーマ週間」を設けて一週間まとめて探究的な学習活動に取り組む学校が多い。
- 基本的にはグループワークの形をとり、協働的な学習活動を重視しているが、学年の発達段階に応じて教員が柔軟に学び方をアレンジしている。
- “横並び”ではなく、教員個人の自由裁量が大幅に認められるため、一人一人の教員の責任もともなう。
- 教員は学習指導要領を熟知している。

5. 個性的にトライできる教師の裁量の大きさ①



ユバスキュラ大学附属小学校



1A

教室にあらわれる教師の個性



1B



1C

5. 個性的にトライできる教師の裁量の大きさ②



【事例】

国語(フィンランド語)や算数や技術・家庭科等は10人程度で授業クラスをつくるケースもある



子どもの登下校の時間帯を半数ずつ時差をつけて分けることで、10人ずつの学習指導を実現!

6. 子どもを社会の一員として尊重する



緊急事態宣言で学校での対面授業中止
→ その2日後からオンライン授業開始

【フィンランド国営テレビ】

マリーン首相(当時34歳)の両脇に、サーリッコ副首相＝科学文化大臣(当時36歳)とアンデション教育大臣(当時32歳)が並び、生放送！

【子ども記者からの質問】

- ・いつから学校に行けるの？
- ・夏休みは旅行に行ったりできる？
- ・フィンランドのために何が出来る？
- ...etc 7人の質問が続く

遠隔子ども記者会見に臨むフィンランドの新政権：2020年4月24日

フィンランド教育の特徴の一つ＝ アントレプレナー教育(起業家精神)

- * 保育園・小中学校・高校・職業学校・大学すべてで重視されている。
- 「私は社会に影響を与えられる・変えられる」というマインドの育成
自己効力感、行動力、リスク管理、協調性や関係調整力、粘り強さ...など

13

7. インクルーシブとソーシャルモデル①

【フィンランドのインクルーシブ教育とは】

特別支援はソーシャルモデルに基づいて提供され、特殊なケースを除き、医者や心理士からの診断は必要としない。全ての通常学校にクラス担任を持たない特別支援教諭が配置され、その特別支援教員は個別または小グループの指導(2~4時間/週)や、子どものアセスメントや担任および保護者へのコンサルテーションなどを行う。

【特別支援学校の スタッフ構成】

- ①クラス担任
- ②特別支援教諭
- ③スクールサイコロジスト
- ④スクールナース
- ⑤ソーシャルワーカー
- ⑥ガイダンスカウンセラー等



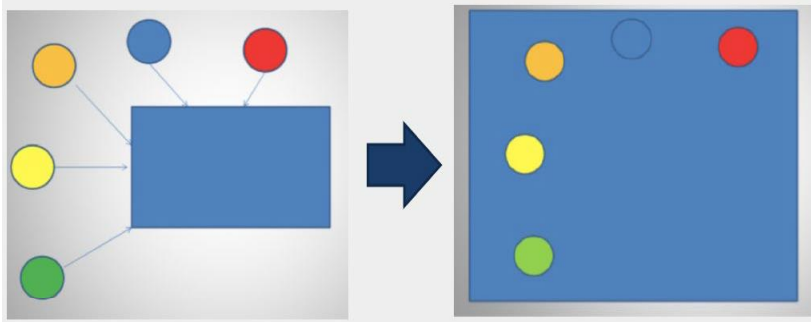
地域の学校へ
(インクルーシブ教育)

モデル	障害の定義	結果としての実践
伝統的モデル	障害は「超自然的な力によって起こされたもの」という文化的信念	隔離、差別、障害の完治を求める、慈善に基づく支援
メディカルモデル (個人モデル)	障害は 個人内の欠陥	個別的・矯正的な治療、標準に合わせさせるための支援、支援対象者としての個人という捉え方
ソーシャルモデル	障害は障害を顕在化させている 環境(社会、クラスルーム、職場)の側の欠陥	社会的バリアの撤回、権利に基づく支援、支援受給者としての個人という捉え方

7. インクルーシブとソーシャルモデル②

インテグラル「統合」

インクルーシブ「包摂」



“障がい”があることが
困るのではなく、環境
が無配慮だから困る

▼形式的「平等」と実質的な「公正」の違い

環境の見直し



8. 国際比較にみる日本の授業タイプ

● TALIS(国際教員指導環境調査)2018の調査結果

TALIS2018 における日本とOECD平均との違い	日本の 小学校	日本の 中学校	TALIS 中学平均
批判的に考える必要がある課題を与える	11.6 %	12.6 %	61.0 %
全児童生徒が単元の内容を理解していることが確認されるまで、類似の課題を児童生徒に演習させる	55.8 %	31.3 %	71.3 %
明らかな解決法が存在しない課題を提示する	15.2 %	16.1 %	37.5 %
完成までに少なくとも一週間を必要とする課題を児童生徒に与える	9.9 %	11.1 %	30.5 %

● この調査結果から言えることは？

- 国際比較をしてみると、批判的思考を養う授業がきわめて少ない。
- 授業は予定通りに進行するため児童生徒の個々の理解への柔軟性が低い。
- 日本の授業は全員が同じ「正解」に導くタイプの授業が多い。
- * 日本の学校教育は子どもの学習行動や生活行動を統制する傾向が強い。

◎多様な個人の「個別最適な学び」のヒント → 北欧フィンランドの教育

9. フィンランドの高等学校（2019年から義務教育）

【進学校】

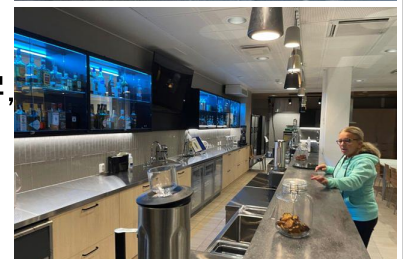
- 1校あたり平均250名の生徒が在籍。1982年からはコース制履修。各コース38時間（1時間は45分）のユニットになっており、1年を5期に分節化して、学期ごとに生徒が授業コースを選択履修するシステム。学年も学級もない、標準3年間の単位制高校である。
- 普通高校の授業は「必修科目」、「専門科目」、「応用科目」に分けられ、卒業単位の内訳は生徒自身が決める。



両者の進路変更も柔軟に行われる

【職業系高校】

- 授業80%が職業専門科目＋実習，15%が共通科目，5%が自由選択科目。少なくとも20%が職場実習。
- 共通科目は母語，第2公用語，外国語，数学，物理，科学，社会，企業と職業生活知識，体育，保健，芸術，文化
- 生徒の希望や必要に応じて，他の教育機関でも履修できるため，履修進度を自分で調節できる。



17

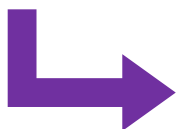
10. 就職活動と高等教育



教員になるためには修士号を取得する必要があるが、修士論文の提出により取得できる修了証明書を携えて公募の出ている学校へ面接のエントリーをする。



修士論文の提出前に就職活動はできない＝修了時期は一律ではない。卒業式「無し」

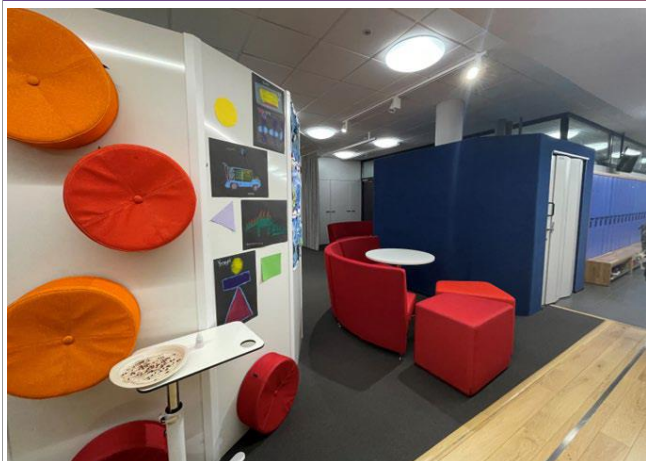


大学での教職課程を履修するのに自治体ごとの教員採用試験に合格しなければ採用されないということは、大学での学びが現場から信用されていないということですか？...と指摘された！

※フィンランドの大学には、就職活動を直接サポートする事務部署はない。

18

参考) フィンランドの学校の多様な学習空間



参考) フィンランドの学校の一般的な職員室



信州大学
国立大学法人

◎一般的な職員室

キッチンとコーヒーマーカーと冷蔵庫があり、果物やお菓子が置かれることが多い



◎固定席はない

ここで連絡事項を共有したり、授業の打合せをしたりすることもある。基本的には休憩室であり、リラックススペースです。

国際比較から思う日本的学校教育の課題

★日本の教育をさらに優れたものに発展させるための改善点

1. 進学や就職先への選抜装置として機能し過ぎている実態の刷新
* 学校ランキング・偏差値の悪影響、学習歴ではなく学校歴への偏重の改善
2. 教員の勤務時間の短縮と心理的安定性の確保
* 教員への負担過剰が結果的に労働生産性の低い職場にしていることの理解
3. 教員の個性的な教育実践に対する寛容さと教員の裁量拡大
* 教科書解説型の一斉授業と標準テストによる評価、横並びの教育からの脱却
4. 子どもの個性・多様性が尊重される柔軟な教育観と寛容さの強調
* 過度な授業規律や管理教育への警戒，同調圧力の悪影響への理解
5. 未来への対応よりも過去の伝統を重視する風土の問い直し
* 不変の学校教育目標、子どもの個性よりも伝統や慣習を優先する弊害の理解
6. 自律的に学び探究的に学ぶ学習者が育ちにくい統制型教育の見直し
* 与える教育、ルールを敷く教育、失敗させない教育の副作用への気づき

21

参考) 日本の学校教育に起きている変化



個別最適な学び
と協働的な学び





- どんなに幼くても、社会の一員という扱いを受ける子ども
- クリティカルシンキングを重視する学校の授業を通して、自分の考えを持てる人になるよう教育される子ども
- 「わかる人は？」ではなく、「あなたはどう思うの？」と問う教師
- 学習した結果を叱ることはなく、その努力を褒める教師
- 子どもに対して過度なストレスやプレッシャーを与えない学校生活
- 自然の中で体験すること、友だちと遊ぶことが優先される学校生活

Reference



◎本レポートの情報ソースのほとんどは伏木が現地で取材したものです。

【参考文献等】

- Centre for Maritime Studies (2011)「LAND USE PLANNING IN FINLAND」
http://meeting.helcom.fi/c/document_library/get_file?p_l_id=80557&folderId=1407050&name=DLFE-4,4459.pdf
- CIA ‘The World Factbook’ : Finland,
<https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/geos/fi.html>
- 「FTTS – Finnish Teacher Training Schools」ホームページより
- 伏木久始(2011):「フィンランドの教員養成の質を保證する要因」信州大学教育学部研究論集, 第4号, pp.25-38
- 山田真知子(2010):「フィンランドの地方自治体とサービスの構造改革」, 自治体国際化協会, 1月
- Syväoja, H., Kantomaa, M., Laine, K., Jaakkola, T., Pyhältö, K., Tammeln, T. (2012) Liikunnta ja Oppi39.1727 .
- 渡邊あや(2022):教育新聞,【北欧の教育最前線】フィンランドの「村の学校」の行方, 5月14日記事